

福岡女学院看護大学チャペル礼拝統計総覧 (2008年度～2017年度)

Overview and statistics of chapel services of Fukuoka Jo Gakuin Nursing University held in fiscal 2008-2017

貞野 宏之*

Hiroyuki Sadano

キーワード：キリスト教教育、宗教教育、キリスト教学内礼拝、聖書、讃美歌

*福岡女学院看護大学看護学部

I. はじめに

多くのキリスト教主義教育を掲げる大学において、様々な形態で学内礼拝が実施されている。本学においても、チャペル礼拝が宗教教育の一端として行われてきた。各大学のホームページにはその学内礼拝が紹介されている。一部には同志社大学のように、日々行われている礼拝の抄録が掲載されているサイトもある（同志社大学キリスト教文化センター）。本学においては、学内向けホームページにて週ごとに実施予定が、また実施後には音声記録等が掲載され公開されている（福岡女学院看護大学NUCCS）。また、学外向けホームページでは前年度実施内容が一部公開されている（福岡女学院看護大学ホームページ）。

本研究の目的は、宗教教育の一環であるチャペル礼拝の学生教育における位置づけの確認と改善の取り組みに資する基盤資料の作成である。

II. 研究方法

チャペル礼拝の全体像は、礼拝の事前周知のための週報、出席者、奨励者（発表者）、奨励内容等から構成されるが、今回は週報の内容に限定することとし、2008年4月8日の週より2018年1月まで発行された、10年間の全週報を対象とした。

【一次資料】

2008年4月8日発行の週報（No.1）から始ま

り、2009年度まではプリント版が保存されていた。2010年度版、及び2011年度前期は週報作成用のワードファイルが保存されていた。2011年度後期版はプリント版が保存されていた。プリント版、及びワードファイルは保存されていた宗教主事より借り受けることができた。2012年度～2017年度（～No.319）は週報WEB版が学内向けホームページ（NUCCS）からダウンロード可能であった。

現在はプリント版、及びワードファイルともに、今回の研究でデータ化したことにより、学内向けホームページ（NUCCS）から2008年度から2017年度まで閲覧することができる。

【二次資料化】

プリント版からはOCR操作、または手入力によってエクセルファイルにデータの移行を行った。ワードファイル、および、WEB版からは、ワードのテキスト処理機能を利用し、エクセルファイルへの移行を行った。エクセルファイルにおいては、データフィールドを実施日、対象学年、聖書箇所、讃美歌（番号）名、奨励者名、奏楽者名とした。2008年から2017年度まで総データ数は1360件であった。

次に、聖書箇所フィールドから、旧約、新約の2種の新フィールド、また、各聖書の書物名フィールドを作成した。また、奨励者名フィールドから、宗教主事、教職員、教職員OB、学生、学院関係者、牧師、他学外者に振り分けた種別フィールドを作成した。「宗教主事」は現任の宗教主事1人

である。「教職員」は礼拝開催時に現職の教職員、及び非常勤を含んでいる。「教職員OB」は看護大教職員のうち、礼拝開催時にOBとなったものである。「学生」は礼拝開催時に学生、「学院関係者」は看護大以外の福岡女学院に所属するもので、学院同窓会関係者を含んでいる。「牧師」は福岡女学院に所属しない牧師職、宣教師を含んでいる。「他学外者」は上記に該当しないものである。「讚美歌」は讚美歌21の該当番号と題名である。また、奏楽者名フィールドから、非常勤奏楽者、学生奏楽者、ヒンプレーヤーに振り分ける種別フィールドを作成した。学生担当奨励では1回ごとに担当者数をフィールド化した。また、各回の奨励内容を、実習体験、国内体験、国外体験、サークル等、その他に分けた種別フィールドを作成した。

以上のエクセルデータベースより奨励題（チャペルトーク）、学生名を除く奨励者名（スピーカー）は年度ごとに学外向けホームページにて公開している（福岡女学院看護大学ホームページ）。

【分析方法】

1. 聖書箇所ランキング：聖書の旧約新約でフィルタリング後、書物名フィールドでソート、年度ごとに数値化した。礼拝一回に複数の聖書書物を使用された場合は重複してカウントした。旧約は8位以下、新約は11位以下を省略した。
2. 奨励担当者推移：奨励担当者種別でフィルタリング後、年度ごとに数値化した。これをもとにグラフ化した。教員が主導し、学生が参加した奨励の場合は教員担当とした。
3. 奏楽担当者推移：奏楽担当者種別でフィルタリング後、年度ごとに数値化した。これをもとにグラフ化した。
4. 讚美歌ランキング：讚美歌でフィルタリング後、年度ごとに数値化した。
5. 学生担当者数推移：学生種別でフィルタリング後、一回ごとの担当者数から、年度ごとの総件数、学生総数、一回ごとの平均学生数に数値化した。これをもとに年度別にグラフ化した。
6. 学生担当奨励推移：学生種別でフィルタリン

グ後、奨励内容別に年度ごとに数値化した。これをもとにグラフ化した。

Ⅲ. 結果

聖書箇所ランキング（表1）では、旧約296回に対して新約1067回であった。頻回引用書物は新約聖書の3福音書（マタイ、ルカ、ヨハネ）である。

表1 聖書箇所ランキング

旧約 296	書名		回数
	1位	イザヤ書	68
2位	詩編	63	
3位	コヘレトの言葉	49	
4位	創世記	33	
5位	箴言	26	
6位	エレミヤ書	24	
7位	出エジプト記	10	
新約 1067	1位	マタイによる福音書	290
	2位	ルカによる福音書	170
	3位	ヨハネによる福音書	98
	4位	コリントの信徒への手紙1	83
	5位	マルコによる福音書	69
	6位	ローマの信徒への手紙	67
	7位	フィリピの信徒への手紙	44
	8位	コリントの信徒への手紙2	42
	9位	ヘブライ人への手紙	37
	10位	ヨハネの手紙1	35

その他の集計結果は、表2に年度ごとの件数、割合で示した。各グラフでは割合を%表示とした。まず、奨励担当者推移（図1）では定常的に教職員が30%前後、看護大宗教主事が20~30%で推移している。2010年度からは教職員が主導し、学生が参加する奨励がみられた（表2-1）。2012年度からは初代学長を始めとした教職員OBが数%程度担当した。学院関係者は2011年度までは10~20%であったが、以後は、10%程度に落ち着いている。近隣の牧師は10%程度で、学外者は2009~2010年度は10%に迫ったが、以後は5%以下である。学生は2011年度までは5%以下であったが、以後は10~20%以上を占めるようになった。

図 1 奨励担当者推移

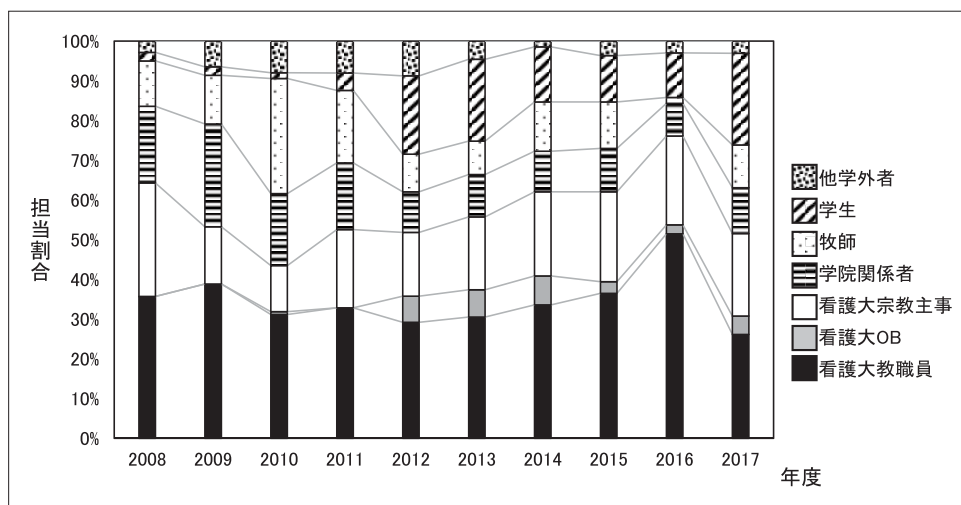


表 2 年度別チャペル礼拝集約表

表 2-1

		件数										割合										
年度		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	計	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
担当者別	看護大教職員	50	54	43(1)	45(1)	40(1)	40(4)	46(1)	50(1)	69(3)	34(1)	471	0.36	0.39	0.31	0.33	0.29	0.31	0.34	0.36	0.51	0.26
	看護大OB	0	0	1	0	9	9	10	4	3	6	42	0	0	0.01	0	0.07	0.07	0.07	0.03	0.02	0.05
	看護大宗教主事	40	20	16	27	22	24	29	31	30	27	266	0.29	0.14	0.12	0.2	0.16	0.18	0.21	0.23	0.22	0.21
	学院関係者	27	36	25	23	14	14	14	15	11	15	194	0.19	0.26	0.18	0.17	0.1	0.11	0.1	0.11	0.08	0.12
	牧師	16	17	40	25	13	11	17	16	2	14	171	0.11	0.12	0.29	0.18	0.09	0.08	0.12	0.12	0.01	0.11
	学生	3	3	2	6	27	27	19	16	15	30	148	0.02	0.02	0.01	0.04	0.2	0.21	0.14	0.12	0.11	0.23
	他学外者	4	9	11	11	12	6	2	5	4	4	68	0.03	0.06	0.08	0.08	0.09	0.05	0.01	0.04	0.03	0.03
	計	140	139	138	137	137	131	137	137	134	130	1360	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
奏楽者	非常勤奏楽者	110	88	94	88	90	89	119	137	81	96	992	0.79	0.63	0.68	0.64	0.66	0.68	0.87	1	0.6	0.74
	学生	26	51	42	49	45	41	18	0	0	0	272	0.19	0.37	0.3	0.36	0.33	0.31	0.13	0	0	0
	教員	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0.01	0	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヒンプレーヤー	2	0	0	0	2	1	0	0	53	34	92	0.01	0	0	0	0.01	0.01	0	0	0.4	0.26
	計	140	139	138	137	137	131	137	137	134	130	1360	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

表 2-2

		件数										割合											
年度		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	計	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
学生担当 回内訳	実習体験	0	0	0	1	12	7	1	7	4	8	40	0	0	0	0.14	0.43	0.23	0.05	0.41	0.22	0.26	
	国内体験	1	3	1	5	10	11	8	7	7	13	66	0.33	1	0.33	0.71	0.36	0.35	0.4	0.41	0.39	0.42	
	国外体験	2	0	1	0	1	7	5	0	2	4	22	0.67	0	0.33	0	0.04	0.23	0.25	0	0.11	0.13	
	サークル等	0	0	1	1	5	5	6	2	4	4	28	0	0	0.33	0.14	0.18	0.16	0.3	0.12	0.22	0.13	
	その他	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	5	0	0	0	0	0	0.03	0	0.06	0.06	0.06	
	計a	3	3	3	7	28	31	20	17	18	31	161	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
学生担当 回	担当人数																						
	年度別学生数b	6	4	7	13	61	44	45	32	39	94	345											
	平均学生数c	2	1.33	2.33	1.86	2.18	1.42	2.25	1.88	2.17	3.03	2.14											

表 2-1 担当者別の件数は一回に複数の担当者の場合においても1件とした。看護大教職員の件数中の()は担当者が教職員が主導し学生が参加した奨励件数を示す。

表 2-2 件数は学生が含まれた奨励件数を示す。平均学生数cは年度別学生数b/計aの値を示す。

奏楽担当者推移(図2)では、非常勤奏楽者が常時60%以上を占めている。2013年度までは20~30%を学生が担当したが、2015年度以降は0%となった。代わるように2016年度からヒンプレーヤーが30~40%の割合で使用されるようになった。

讃美歌ランキング(表3)では讃美歌21から173曲が讃美され、そのうち上位20位を示している。1位は一般にも知られている曲である。2~3位、7位には学生生徒に親しみやすく、歌いやすい曲が入っている。4~6位は式典でも讃美される定

図2 奏楽担当者推移

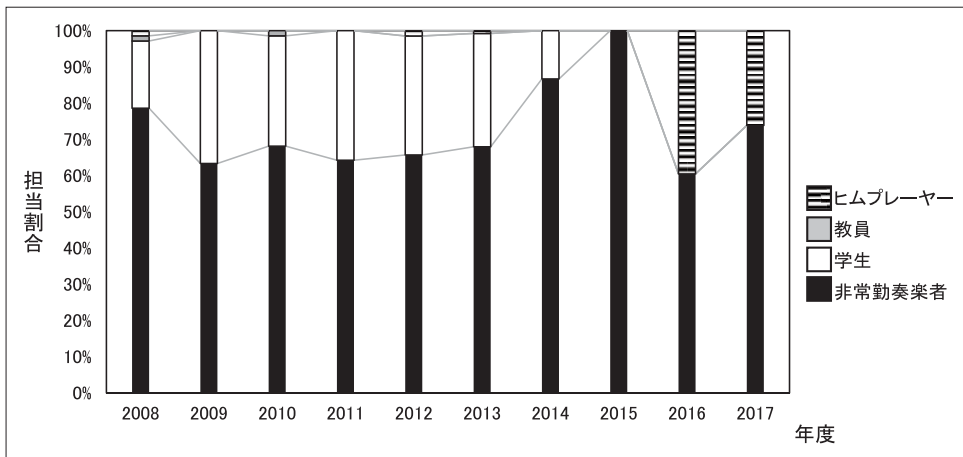
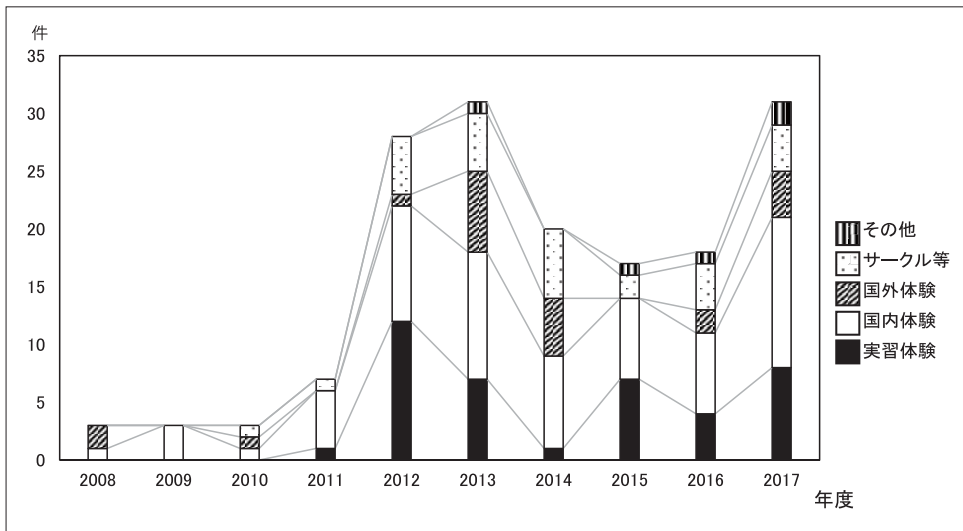


表3 賛美歌ランキング

順位	回数	曲番	題名	順位	回数	曲番	題名
1	64	493	いつくしみ深い	10	23	280	まぶねのなかに
2	63	575	球根の中には	10	23	403	聞けよ、愛と真理の
3	46	470	やさしい目が	10	23	371	この子どもたちが
4	44	520	真実に、清く生きたい	10	23	533	どんなときでも
5	40	412	昔主イエスの	10	23	484	主、われを愛す
6	39	57	ガリラヤの風かおる丘で	10	23	451	くすしみ恵み
7	29	425	こすずめも、くじらも	16	22	563	ここにわたしはいます
8	28	463	わが行くみち	17	21	505	あゆませてください
9	25	263	あら野のはてに	17	21	258	いそぎ来たれ、主にある民
				17	21	566	むくいを望まで
				20	20	290	おどりて姿で

図3 学生担当奨励種別



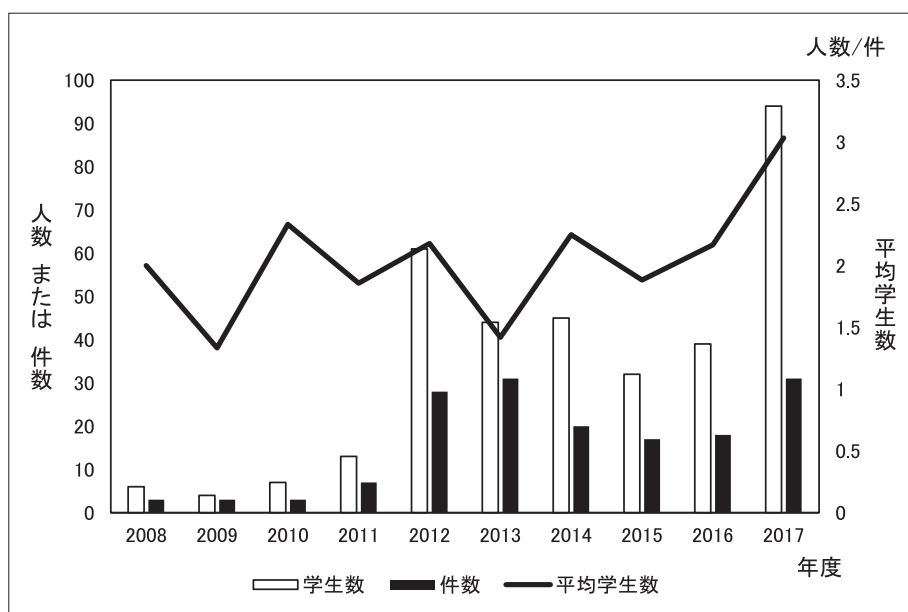
番の曲である。9位はクリスマスシーズンに讃美される曲である。

学生担当者の奨励内容推移(図3)では、2011年までは国内研修、ボランティア体験などの国内体験が主だったが、以降は、2014年を除いて実習

体験が増加した。サークルの活動紹介、国外体験などもテーマとなった。

学生担当者数の内訳(表2-2、図4)では、2011年度以降、件数と学生数が増えたが、一回当たりの共同担当者数は3人程度となっている。

図 4 学生担当数推移



IV. 考察

【聖書】

聖書のページ数としては旧約1502ページ、新約480ページで、新約聖書は旧約聖書の1/3である。今回の引用回数としては新約が旧約の3.6倍となった。聖書箇所を選定は、ほとんどの場合宗教主事が行ってきたが、奨励担当者も学生も新約聖書により親しんでいることによるとみられる。新約聖書の中の福音書は、イエスの・キリストの直接的福音メッセージを語るという性格を持つ書物ということから、キリスト教の神髄ということもでき、一般的にも知られたエピソードが多い。本学1年次のキリスト教の講義においても解説されるため、チャペル礼拝での奨励の背景が理解されやすいということもある。

旧約聖書のイザヤ書、詩篇、コヘレトの言葉では、文章や詩の内容そのものが一般的ではないので、宗教主事や牧師によって取りあげられている。

【担当者】

担当者の構成は看護大教職員、宗教主事、学生、学院関係者が8割以上を占め、学外からの牧師等は10%程度である。10年間を通して、宗教主事と教職員が6割を占め、宗教主事が週1回以上、教職員が週2回以上担当したことになる。宗教主事

が、開学以来宗教部委員の教職員はじめ教職員に奨励のおすすを不断に行ってきた結果であるとみられる。ちなみに、2016年は前副学長の任期中は他の年度よりも教職員担当割合が10%上昇した。2012年以降は学生の担当回が20%程度増え、本学の学内礼拝の特徴となっている。公開されたホームページによると、多くの大学で聖職者、キリスト者教員を中心に奨励がなされているとみられる。一方で学生の参加を方針としてホームページで公表している大学もある。一例として、広島女学院では週1回のチャペルを教職員と学生が交互に担当し（広島女学院大学ホームページ）、長崎ウエスレヤン大学は学生の担当割合は不明であるが、チャペルでの学生活動報告などが行われている（長崎ウエスレヤン大学ホームページ）。こういった学生参加のチャペルの教育的な意義に関して、キリスト教主義大学の学内礼拝を調査した比較研究は今後に待たれる。

【奏楽者】

キリスト教の礼拝において、奏楽は不可欠な要素である。入場時、前奏、讃美歌、後奏時に主としてオルガンが演奏される。同法人の曰佐キャンパスの礼拝では専任の奏楽者が担当するが、看護大学では非常勤奏楽者が60%以上担当している状況である。開学時から2014年度まで20-30%程度

を学生が奏楽を担当していたことは特徴的である。学生が担当することで親しみやすく、学内共働で礼拝を形作るというスピリット形成の意味があった。一方で演奏技術が礼拝レベルに達しない場合もあり、礼拝の完成度の面では問題があった場合も見られた。

2015年度からは、学生奏楽者は立候補がなく実現していない。一方で、2016年度からはヒムプレーヤーによる奏楽が30-40%になった。ヒムプレーヤーは讚美歌21の伴奏曲を収録した電子プレーヤーで讚美歌番号をキー入力することで楽曲を出力することができる。奏楽者は参列者と合い協調しながら演奏することができるのに対して、ヒムプレーヤーは機械的な進行となるので、参列者がヒムプレーヤーに合わせて歌うことに慣れざる負えない状態となっている。現在では、学生はカラオケ演奏に慣れており、違和感は少ないと考えられる。

曰佐キャンパスの礼拝では、専任の奏楽者がパイオルガンを演奏している。同法人内でも看護大の状況は特殊性があるとみられる。本学の奏楽の状況は今後も分析検討がなされ、曰佐キャンパスと比較し改善するべき部分を見定めるべきものである。また、他学とも比較研究することにより大学礼拝の奏楽の意義を深めることができるとみられる。

【讚美歌】

本学の讚美歌は讚美歌21という、キリスト教主義学園で広く使用されるものである。選曲は概ね宗教主事が担当している。1位の「いつくしみ深い」は、一般社会でもよく知られている讚美歌の1つであり、外来者が来られる入学式、卒業式でもよく歌われ、本学では入学後の1年生の初期の礼拝で歌われる。また、学生の出身学校がキリスト教主義学園の場合、既に親しみ歌われていた曲も多いとみられる。「球根の中には」「やさしい目が」「こすずめもくじらも」「どんなときでも」がこれに相当する。讚美歌は歌い親しむことにより、礼拝外でも口ずさみ歌われるものである。これに加えて、讚美歌は宣教のためにも、さらには信仰の表現でもある。多くの讚美歌が繰り返し歌われることで、キリスト教のメッセージの浸透が図れ、

宗教教育の実りにつながると考えられる。

【学生奨励担当】

2010年度まで学生が担当する回数が5件以下だったものが、2011年度には2倍になり、2012-2013年度には30件程度まで増えた。その後も例年20件程度以上で推移している。奨励の内容は実習体験、国内の研修やボランティア体験が多い。実習体験は実習指導教員がチャペルでの発表を勧奨し、教員とともに奨励にあたることで促進された。特に、実習未経験の下級生への奨励では真剣に耳を傾ける学生の姿があった。国内研修では宗教部主催のスタディツアー、また各種ボランティア体験の発表がなされた。これらは未経験の学生にとっては体験を共有化すると同時に、奨励担当学生にとっては体験の振り返り、内面の成長につながることが期待されている。

国外体験は、個人旅行の発表から始まり、2017年度には大学主催のオーストラリア看護研修の体験発表がなされた。礼拝で体験者の発表を聞いた学生には多様な文化を知るとともに、自らの参加への動機づけができていとみられる。学生の奨励準備には、宗教主事が担当した。学生が希望する発表内容を聞き取り、聖書の選定、学生の発表指導までを行っており、その過程は礼拝に根差した宗教教育を個別に具現化している事に等しい。奨励の終わりには祈り、または黙とうを学生が選んでいるが、自ら祈祷する学生も現れるようになり効果が上がっているとみられる。今後の研究では、奨励を担当した学生の感想などを聞き取り、分析することで、チャペル礼拝への学生のかかわり方と教育効果を考察することができると考えられる。

V. おわりに

開学10年を期して、開学当初から不断に続けてきたチャペル礼拝の総覧を試みた。学内向けホームページでは、全週報を閲覧することができ、今回のデータベース作成、分析の一端が実現した。今後は、他学の調査も含め、更なるデータの収集分析によって、宗教教育の充実と発展につながるものと祈念する。

週報データの利用を快く認めていただいた、福岡女学院看護大学金田俊朗宗教主事、宗教部委員会に深謝します。

文献

同志社大学キリスト教文化センター. チャペルアワー. 2018-08-19. <http://www.christian-center.jp/chapelhour/index.html>

福岡女学院看護大学NUCCS. 宗教部. 2018-08-17. http://nxc.jp/fukujons/?page_id=819

福岡女学院看護大学ホームページ. チャペル礼拝. 2018-08-19. <http://www.fukujo.ac.jp/ns/chapel>

広島女学院大学ホームページ. 宗教センター. 2018-08-19. <https://www.hju.ac.jp/life/support/religion.php>

長崎ウエスレヤン大学ホームページ. ピースチャペル. 2018-08-19. <http://www.wesleyan.ac.jp/institution/chapel/>